

# 日本一の産地PR「雑穀大福」どうぞ

## 復興支援の21日、文化祭で販売

青雲祭に向け、雑穀大福を手にする(左から)八重樫さん、照井さんと被災地から仕入れたサイダーを持つ阿部君



雑穀お菓子では、同科の「菓匠丸文」とコラボの2、3年生有志各4人生産「雑穀かりん」として構成する商業研究班が「雑穀大福」を地場産ヒエ粉で手作り生産などに取り組む。被災地から仕入れた「雑穀大福」を同町み青雲祭で販売する。

### 花北青雲高 地元菓子店とコラボ ビジネス情報科

花北青雲高校(遠藤敏夫校長、生徒469人)は、花巻市石鳥谷町北寺林のビジネス情報科は、21日に一般公開する文化祭(青雲祭)に、産地をアピールし、マーケティングの収益金を寄付し、被災地復興に役立てる。

このうち、雑穀大福は、イナキビ粉2割、もち粉8割で皮を作り、中をクリームチーズ、あん、くりを入れた。「菓匠丸文」の中村弘樹社長は「タカキビ特有のふんわりした食感が楽しめるはず」と話す。

同班のリーダー八重樫晴香さん(3年)が考案した上で「内陸部では買えない商品を仕入れた。ぜひ立ち寄ってほしい」と来店を呼び掛けている。

また、情報工学科は、バッテリーカー、マイコンカーの試走や各種製作ロボットの実演など、総合生活科は、実習内容の展示、1年生の「そば粉入り」100円で300袋をどちらも税込みで限定販売。他に市内の菓子工房「夢舎舎」の新製品「地元産ヒエ粉使用「辛ビ

スコッティ」も、お披露目を兼ねて30個販売する予定。八重樫さんは「去年と違い満足できる仕上がり、サブリナーの照明はなごさん(3年)は「地元の食材を使った商品を楽しんでほしい」とそれぞれ思いを語った。

供たちの姿が大きな励み。新たな車両の配備を活動の充実、強化につなげたい」とあいさつした。

花巻署石鳥谷交番の佐藤淑夫所長が激励し、同協会の石鳥谷支部評議員

出動を前に青色回転灯装備パトロール車を確認する関係者



整備された37台のうち本県に3台が配分され、県防犯協会連合会を通じて1台を貸与された。これまでは09年度配備の1台を各地域が交代で使用し、不便だった。

児童生徒の通学路やコンプレックスなどを巡回する自主防犯活動に活用されている。同協会によると、市内の同車両は地区限定を含め7台になった。

◆第34回 少年団 道徳競技 体育館、個人

### きょう賢治の音楽祭

#### 花巻市の開館30年、支援に感謝

宮沢賢治記念館の開館30周年を記念する音楽祭(花巻市主催)は、19日午後6時30分から、同市若葉町の文化会館で開かれる。賢治にちなんだ歌の合唱や楽曲演奏、物語朗読などで30年間の同館支援に感謝し、賢治ファンとの交流促進を図る。

音楽祭は「風のストーリー」と「光のコンサート」の2部構成。第一部では、賢治の美弟・清六さ

メッセ、第2部 藤原真金少年ラなどがエロと賢子たちのというヒンを使用されてお注目も集当日は入場無料同館102319